

# 旧北上川河口かわまちづくり検討会資料

---

## 検討中間報告

平成25年10月15日

東北地方整備局 北上川下流河川事務所

石 巻 市

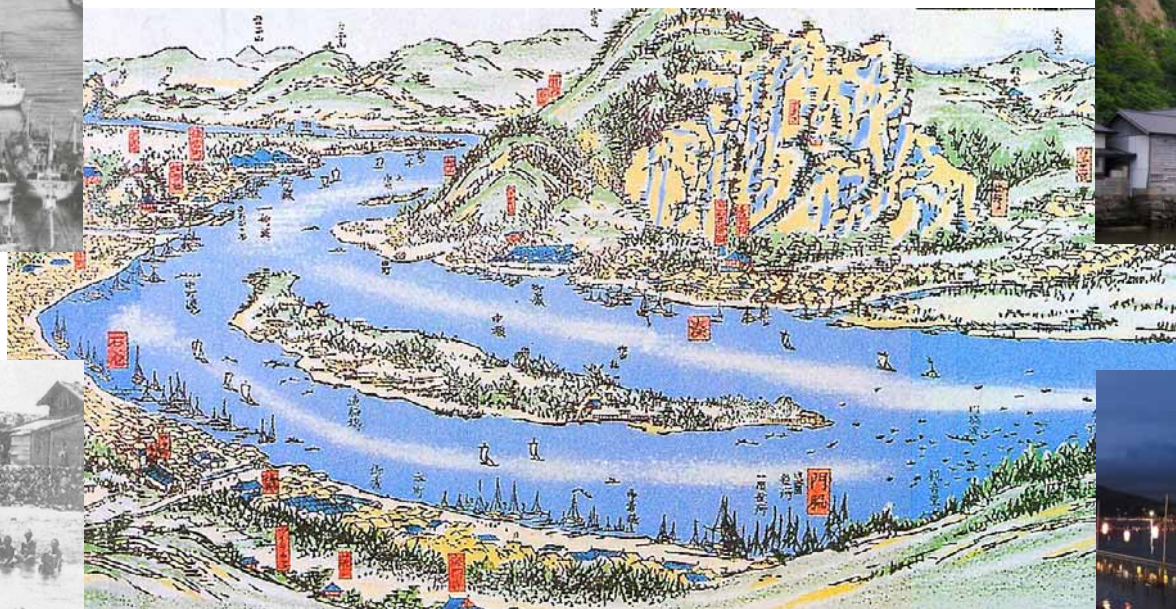
# 1. 検討の基本方針

## (1) かわまちづくりの基本方針

古くから川湊として発展してきた経緯、優れた石の生産地であること等の地域の歴史や文化等を踏まえた景観を形成する。



河口港であった石巻港



仙台石巻港眺望之全図(部分)



井内地区の石切り場



北上川で泳ぐ住吉小学校の児童達(昭和初期)



川開き祭り(灯籠流し)

市民、子供たち、観光客等が水辺を楽しみながら、地域の歴史や文化等を学び知る人々が集い、利活用が図られ、賑わいの創出、憩いや健康増進等に寄与する

## (2) 全体設計の方針

川湊の風景づくりの精神を受け継ぎ、  
まちの基盤となるアースデザイン(地形のデザイン)として取り組む



### 【全体設計の原則】

- 原則1 : 堤防を地形の一部として捉える
- 原則2 : 構造物のサイズは常にできるだけ小さくなるように努力する
- 原則3 : 水辺環境に対する配慮を行う

### 【拠点設計の原則】

- 原則1 : まちの成り立ち、今後のまちづくりを踏まえる
- 原則2 : 利用形態を踏まえる
- 原則3 : 拠点にふさわしい質の高いデザイン

## 【デザインの方針】

- 方針 : 過去の地形や河道等に配慮しながら、雄大でおおらかな河岸を形成する
- 方針 : 旧北上川河口部における歴史や文化を尊重し、それらが想起できる空間を形成する
- 方針 : 日常の散策や憩いの場として、ヒューマンスケールにあった居心地の良い空間づくりを行う
- 方針 : 拠点部は、全体のアクセントとして、また、まちとのつながり・利用形態を重視して、場所に即した丁寧な質の高い設えを行う



日和山からの眺望



袋谷地の岸边



大正時代の川開祭ボートレース



川開き祭り(灯籠流し)

河戸(かわど)

## 2. ワーキングでの検討結果(中間)

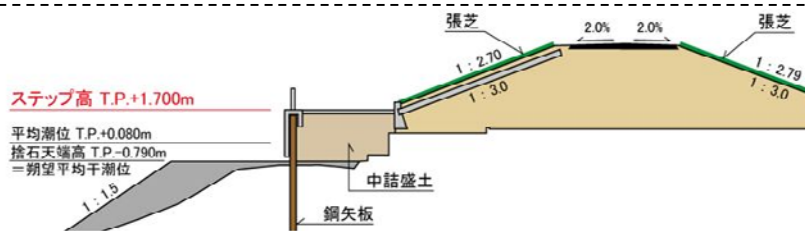
項目		主な検討事項		備考
		元の設計	検討内容	
堤防・護岸 の基本形状	ステップ高	T.P. + 1.7m	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下流区間 T.P.+1.4 m</li> <li>・船舶停泊あり区間(港湾区域) T.P.+1.2 m</li> <li>・上流区間 T.P.+1.2 m</li> </ul>	上流区間は、現況の地盤高を踏まえ設定
	堤防法線	直線的な堤防法線	・日和山等からの眺望や、過去の地形等を尊重した堤防法線	詳細は、背後地の計画等を含め検討
	護岸法線	直線的な護岸法線(矢板の打設位置)	・現況の水際ラインの出入りを尊重した護岸法線(最低3.5m以上のステップ幅を確保する)	水際の線形については、今後検討
	護岸形状	水際部でコンクリートが露出 広いテラス空間が部分的に生じる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船舶停泊なし区間 水際に捨石を行いコンクリート部を被覆 広いテラス空間の箇所は、場所に応じた要素(例:かわど、植生等)を配置</li> <li>・船舶停泊あり区間(港湾区域) コンクリートで矢板の目隠しを行い、防舷材等をアクセントとしたデザインを検討</li> </ul>	具体形状や要素の設置箇所については、今後検討
拠点整備の 方向性	中央地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水面を間近に感じられる休憩・憩いの場の充実および、イベント時利用にも対応する観覧スペースの確保を考えた、水辺空間の整備</li> <li>・港としての機能を重視したデザイン</li> </ul>		
	住吉小学校前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧北上川の河道の変遷や水辺環境を学ぶ自然学習の場として整備</li> <li>・今後、小学校等の意見を聴きながら、場の位置づけや具体の利用方法等を検討していく</li> </ul>		
	住吉神社前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神社、雄島・太鼓橋等との関係を十分考慮した、川側に開けた神社・公園空間として整備、昔の風情を感じさせる水辺空間の整備</li> </ul>		
	南浜地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復興祈念公園やマリナー計画等との調整を図りながら、デザインを検討していく</li> </ul>		
	湊地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロムナード計画等との調整を図りながら、デザインを検討していく</li> </ul>		
内海橋の架け替え		<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤防等との関係を考慮し、橋の高さを抑えるなどの工夫について検討した。</li> </ul>		

# 3. 堤防・護岸等の基本形状

## (1) ステップ高

### 【元設計の課題】

- ・T.P. + 1.7mで、水面(平均潮位T.P. + 0.08m)との距離(高さ)差がある。
- ・そのため、親水性や水面利用の際の利便性に難があるととも、景観的にもコンクリート部等が大きく露出し目立つことになる。



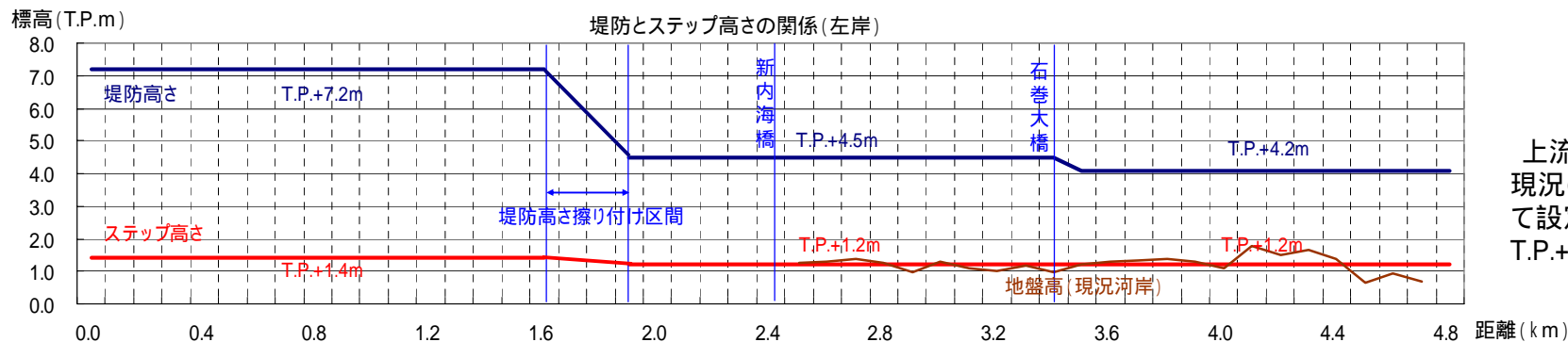
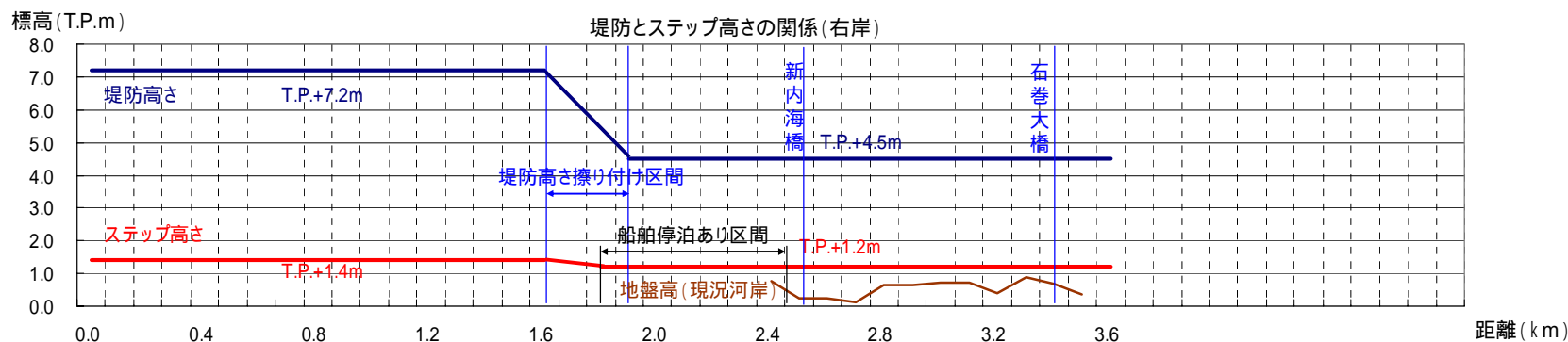
対応方針

### 【ステップの基本的な高さ】

下流区間 T.P.+ 1.4 m (波浪の影響を考慮)

中央・門脇地区の船舶停泊あり区間(港湾区域) T.P.+ 1.2 m (堤防高さの擦り付け区間で高さを調整)

上流区間 T.P.+ 1.2 m



上流区間については、  
現況の地盤高を踏まえて設定する(部分的に  
T.P.+1.2mより高くなる)。

# 水位のイメージ (右岸2.4k付近)



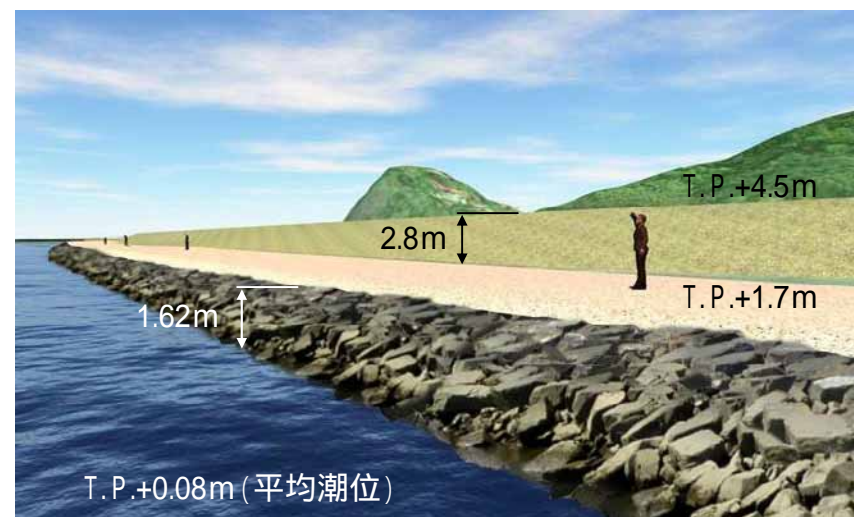
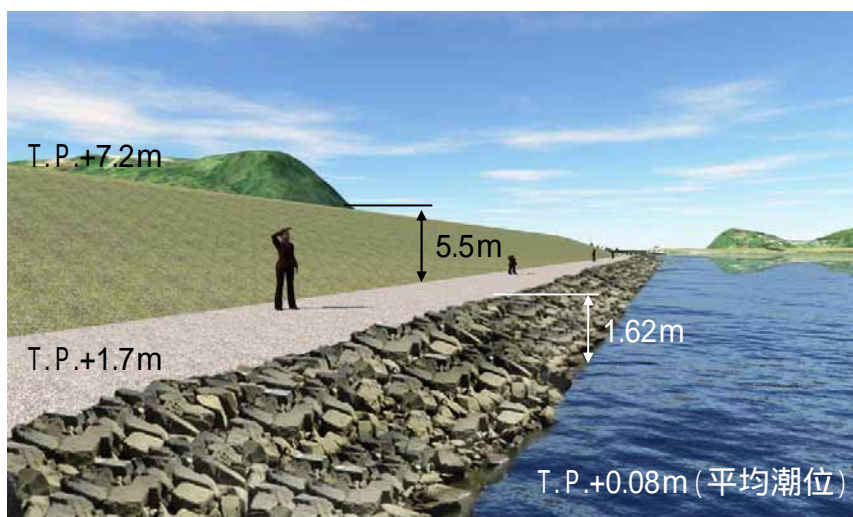
### 【下流区間】

旧北上川右岸1.5k付近 下流側から上流側を見る

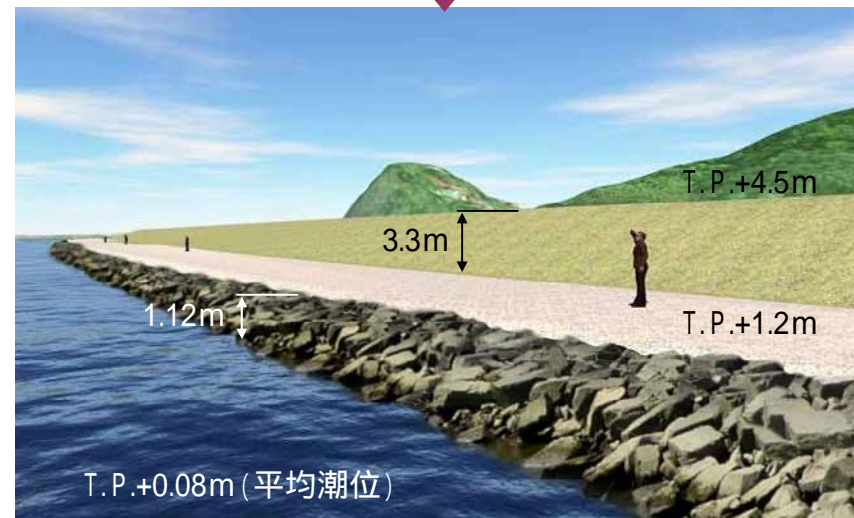
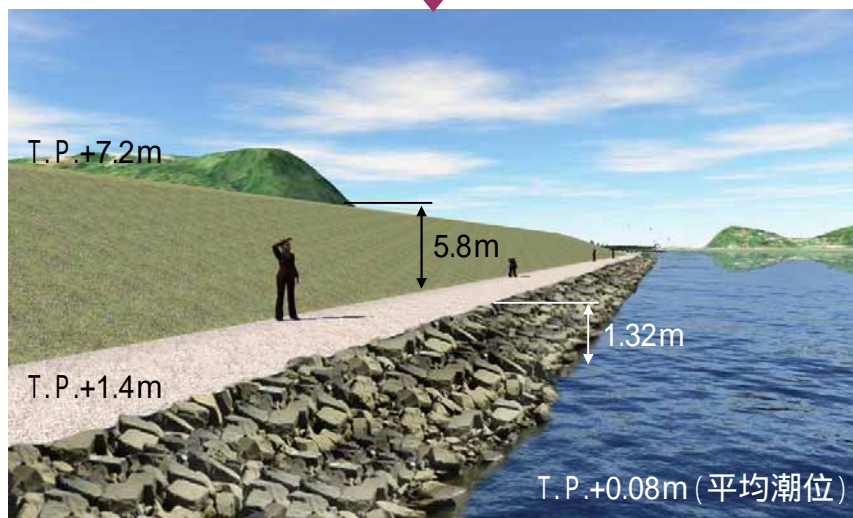
### 【上流区間】

旧北上川左岸2.2k付近 下流側から上流側を見る

元設計



変更案

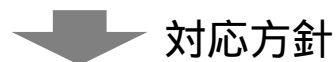




## (2) 堤防法線

### 【元設計の課題】

直線的な堤防法線であり、日和山等からの眺望における違和感、現在の河岸や過去の地形等との差異が生じる。



日和山等からの眺望に配慮した堤防法線の見直し  
現況の河岸や過去の地形等を尊重した堤防法線への見直し

変更案 (右岸:住吉小学校前)

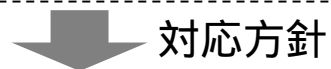


詳細の形状は、背後地や水際部の利用計画等との整合を図りながら、今後検討を行う。

### (3) 護岸法線

#### 【元設計の課題】

- ・現状の水際ラインを大きく包括する直線的な護岸法線(矢板の打設位置)であり、その結果、現在の水際ラインとは異なる形状となる。



対応方針

現況の水際ラインの出入りを尊重した矢板の線形を設定する  
水際の線形については、矢板の線形をふまえ、今後別途検討する

変更案

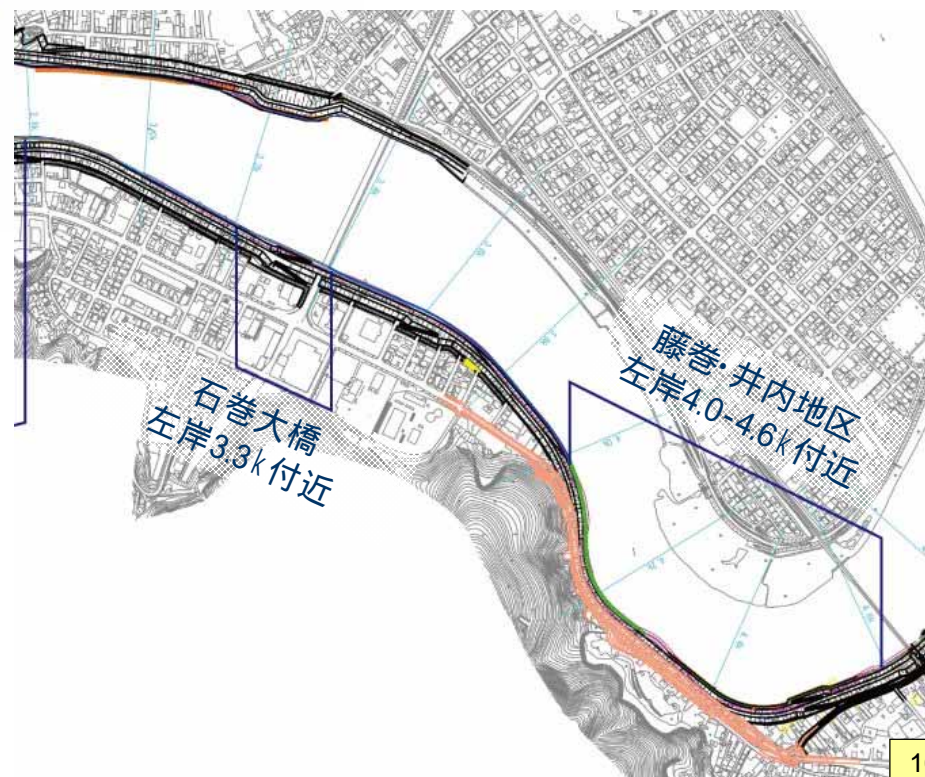
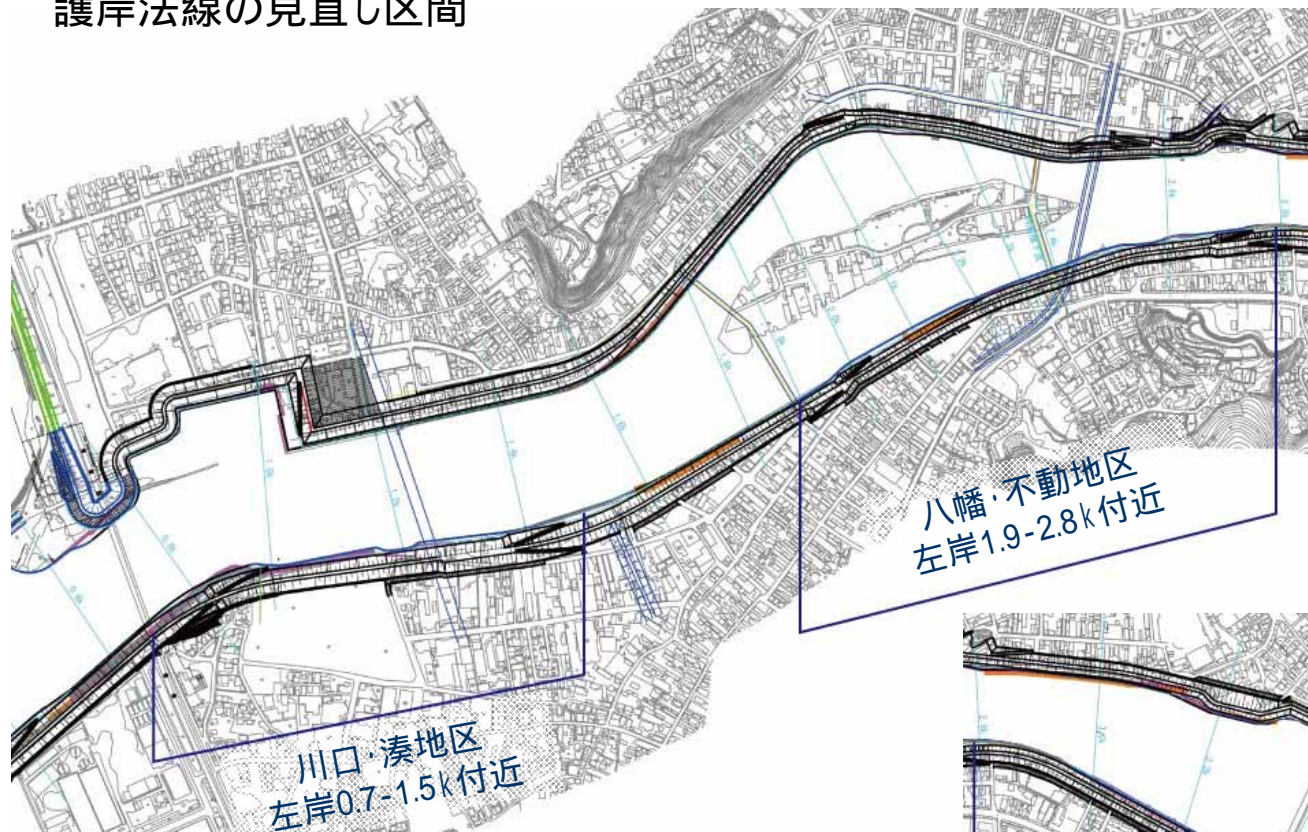


川口・湊地区(左岸0.7-1.5k付近)



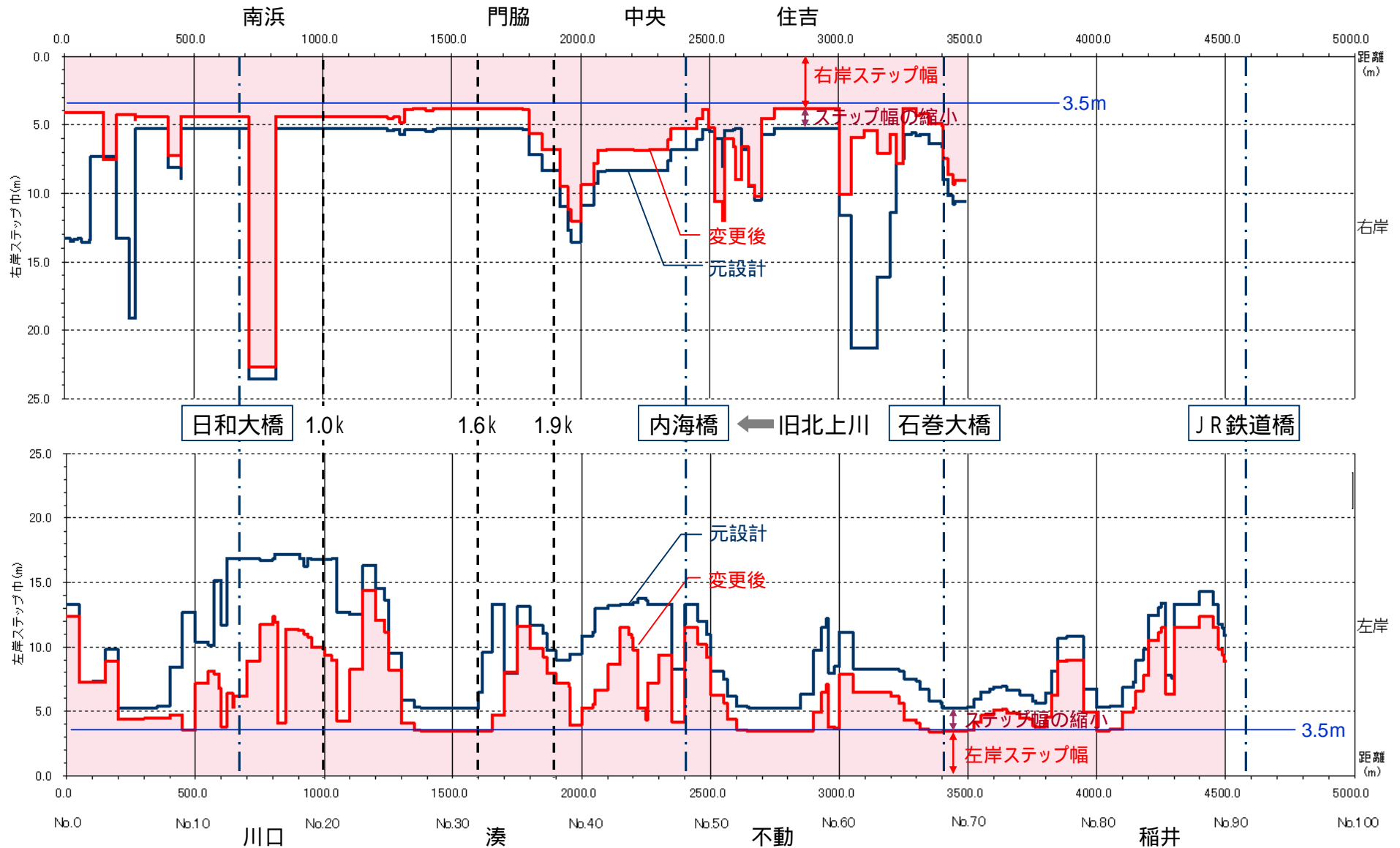
藤巻・井内地区(左岸4.2-4.6k付近)

# 護岸法線の見直し区間



# 矢板護岸線形とステップ幅の関係

ステップ高と矢板護岸線形の見直し結果にともない、ステップの幅は下図のとおりとなる。

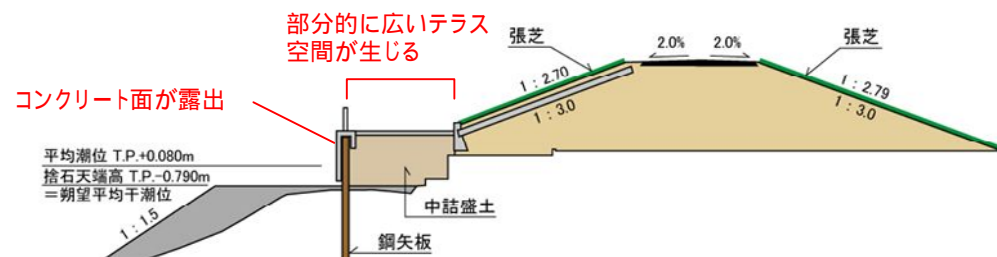


## (4) 護岸形状・テラス空間

### 【元設計の課題】

全ての区間の水際部でコンクリートが露出し、特徴のない画一的な景観となる。

矢板が打設できる位置との関係から、広いテラス空間が部分的に生じる。

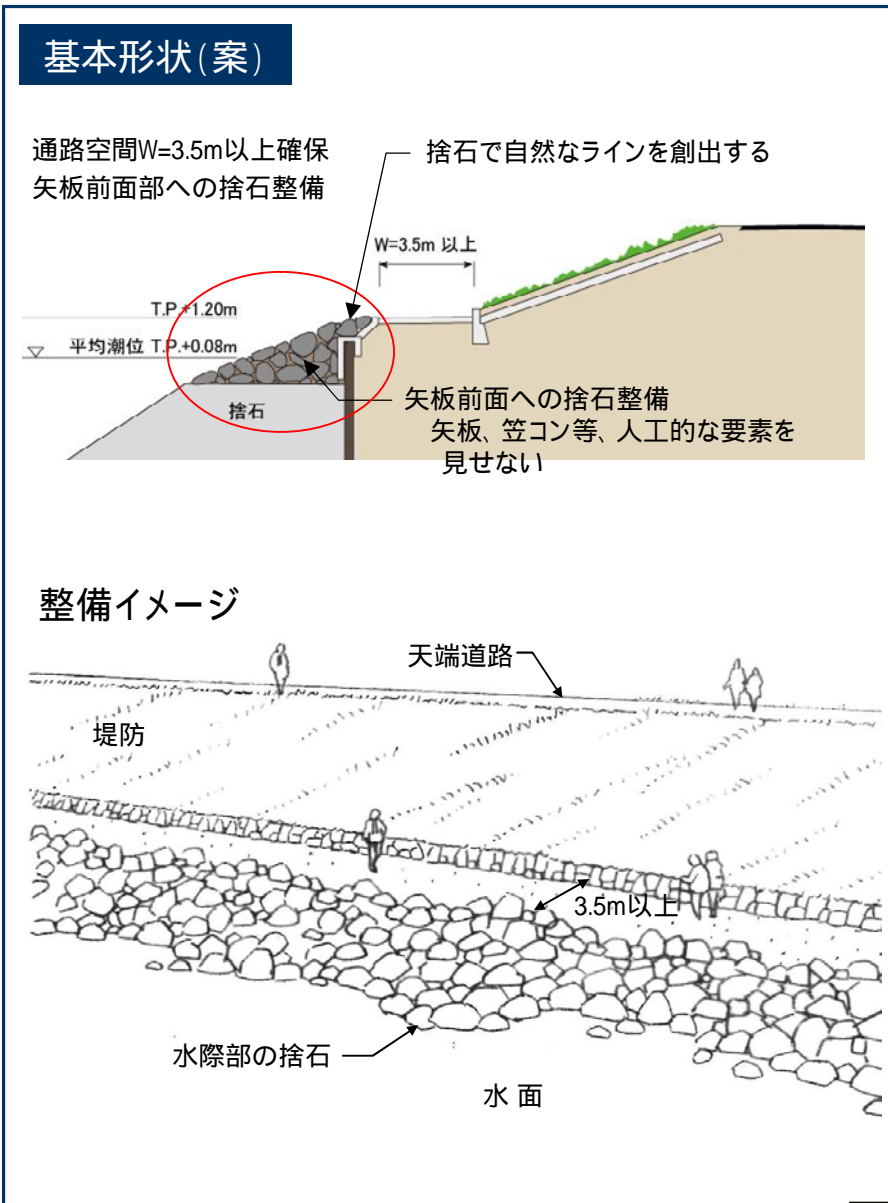
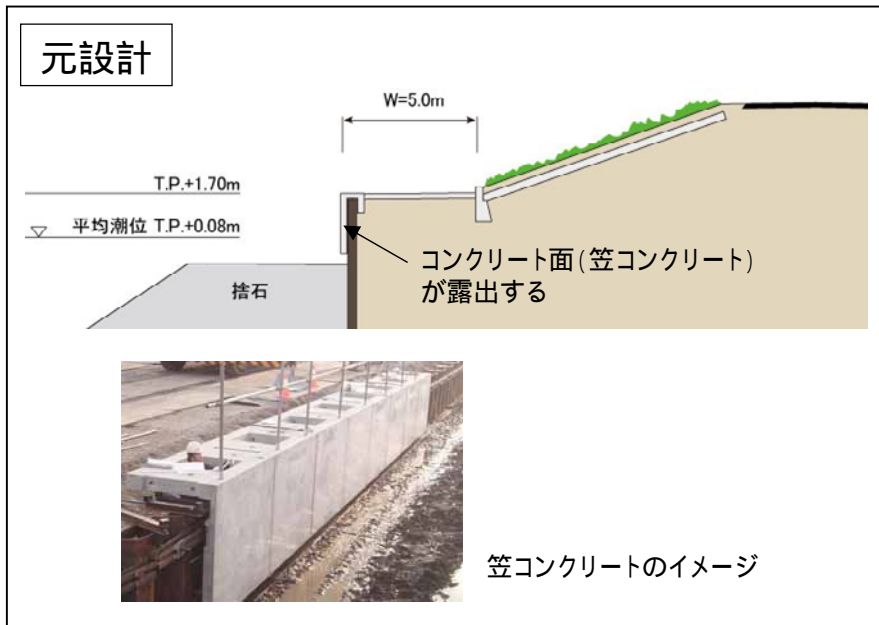


対応方針

矢板の修景を兼ね、水際に捨石を行う（船舶停泊なし区間）  
広いテラス空間の箇所などには、場所に応じて自然環境再生、親水階段（かわど）等の要素を配置していく

# 矢板の修景を兼ねた水際の捨石 (船舶停泊なし区間)

捨石により、川的作用による自然環境再生の基盤としても、期待できる



水際の石積みの風景 (昭和40年代)  
(出典: グラビア石巻)



左岸井内付近の石積み

# 場所に合った要素の配置（広いテラス空間の箇所）

## 1) 捨石等による修景



- ・捨石部分を幅広に確保するとともに、法尻線も緩やかに変化をつける
- ・幅の広い区間で、テラス空間がオーバースケールにならないような配慮を要する区間等

## 4) 水際部への中・高木植栽



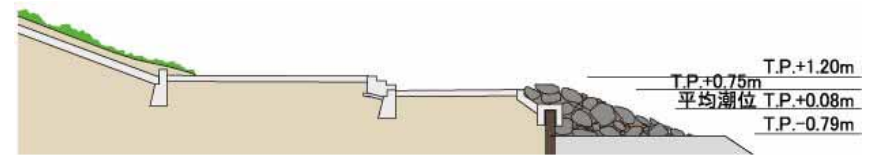
- ・まちとつながるアクセス拠点等へ、水際部への中・高木植栽

## 2) ヨシ原の再生



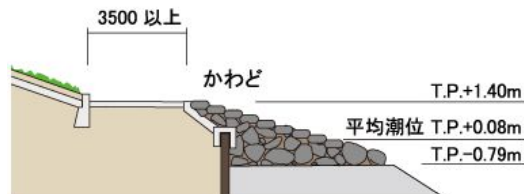
- ・水際部にヨシ原を再生
- ・旧来の干拓地などを想起させる箇所に設置

## 5) 段差等の設置



- ・部分的に腰掛けられる段差等を設置
- ・幅の広い区間で、人々の集いや水面利用等が考えられる区間

## 3) 親水階段(かわど)



- ・単調になりがちな水際のアクセント
- ・まちとの接点となる階段部等に設置

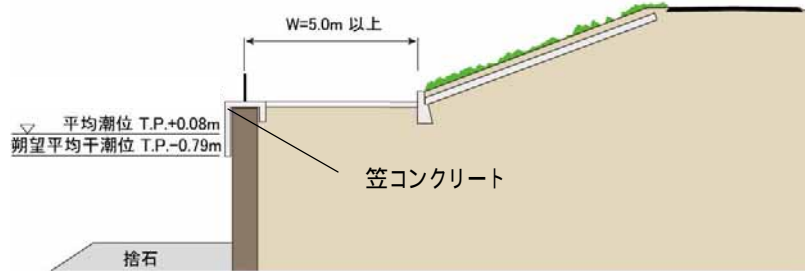
具体的の設置箇所については、全体区間の区間割等を踏まえ、今後検討を進める。

# 船舶停泊あり区間(港湾区域)の基本形状

笠コンクリートで矢板の目隠しを行う(防舷材等をアクセントとしたデザインを行う)

## 基本形状(案)

笠コンクリート、朔望平均干潮位T.P.-0.79mより上部で、矢板が露出しない長さで設置



・通路空間幅: 5 m以上 港湾区域の機能的要件等より設定



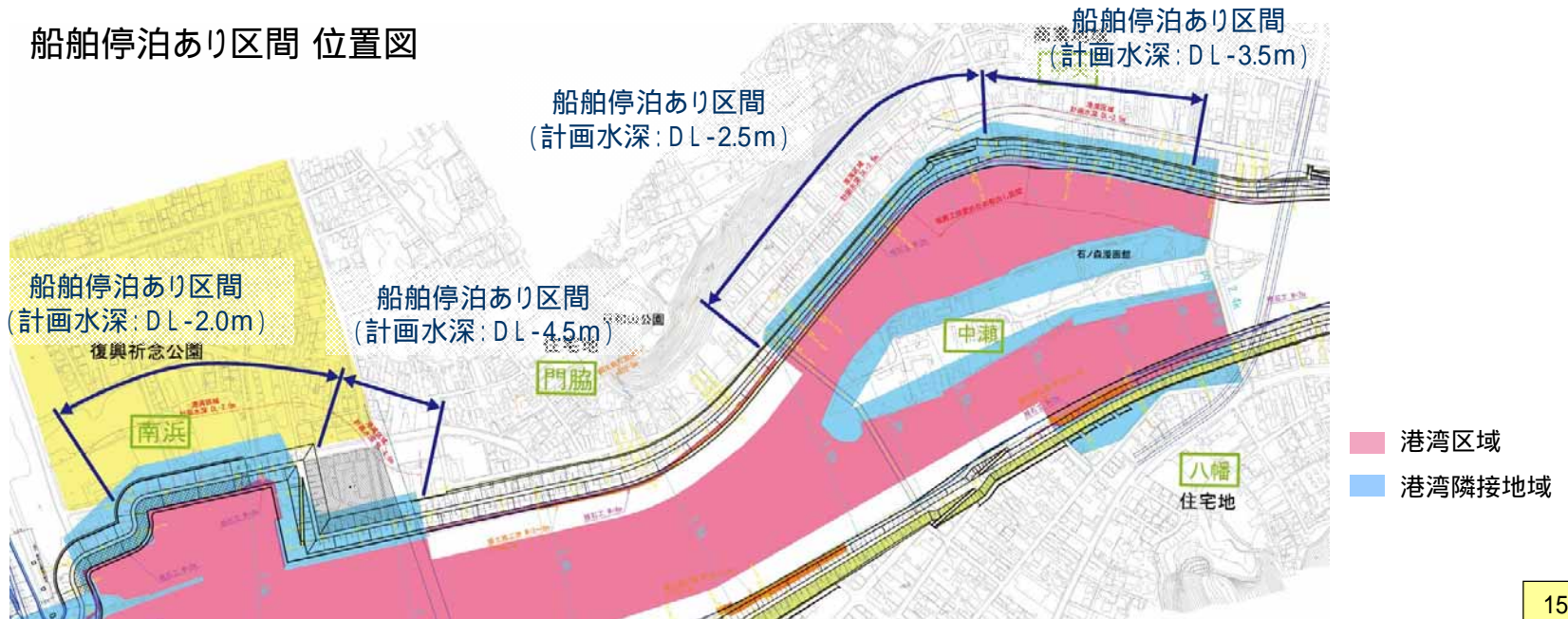
笠コンクリートのイメージ



防舷材・係船柱

防舷材等をアクセントとしたデザインの詳細は、今後検討を行う。

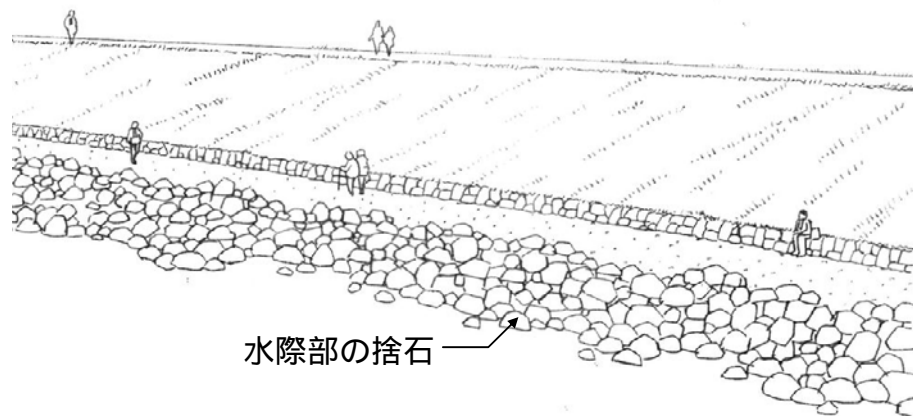
## 船舶停泊あり区間 位置図



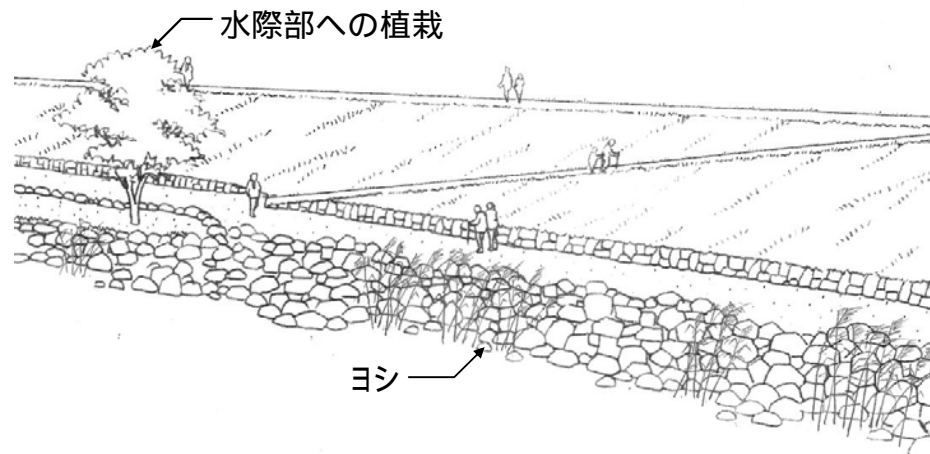


# 基本形状のまとめ

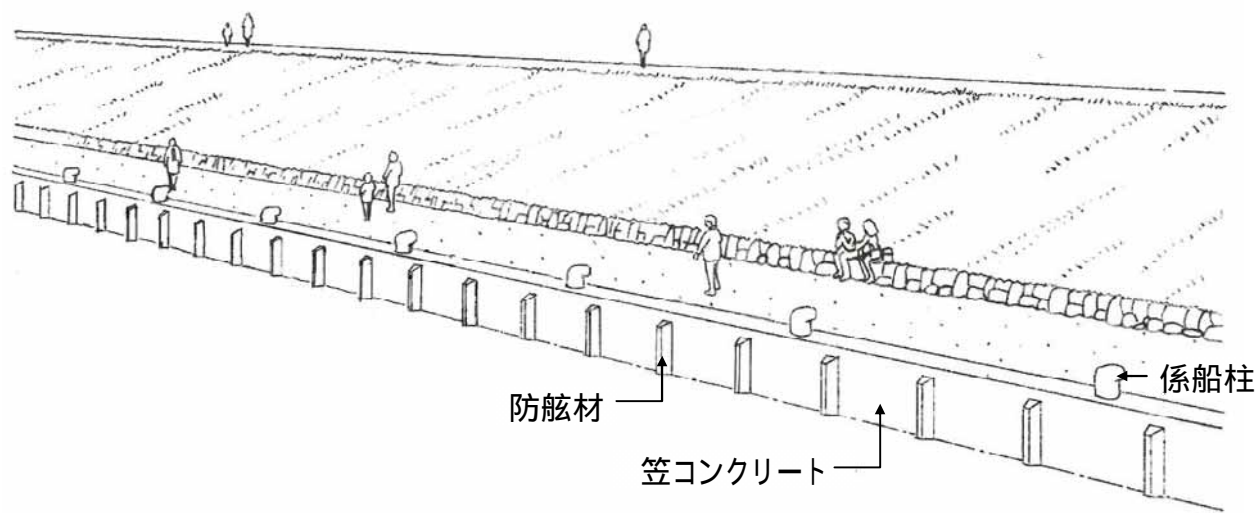
## 船舶停泊なし区間



## 自然再生部分



## 船舶停泊あり区間



## 4. 拠点整備の方向性



拠点区間として、堤防の基本形をベースに、場の特性、条件に応じた個別のデザインを検討する。

- (1) 中央地区
- (2) 住吉小学校前
- (3) 住吉神社前
- (4) 南浜地区
- (5) 湊地区

南浜(内港)地区については、復興祈念公園やマリーナの構想等との調整を図りながら、堤防法線やデザイン検討を行う。

湊地区については、水際は基本形状をベースとして検討し、プロムナード計画等との調整を図りながらデザイン検討を行う。

## (1) 中央地区

### 利活用の場としての水辺空間の位置づけ

#### 水際から堤防天端に連続する空間

水際から天端までは、水辺を眺め、感じる、人々が集まる賑わいと憩いの空間

広い空間を活かした、ミニコンサート、フリーマーケットを始め、川開き等の大規模なイベント観覧での利用

また、散策やまちなかの回遊、憩いの場、マラソン大会などのスポーツ大会でも活用

#### 背後のまちと堤防をつなぎ 一体として活用する空間

背後の再開発による、商業施設との一体的な空間であり、リバーサイドでの食事や買い物など、日常的に多くの人々が利用する空間

屋外部分はオープンカフェや移動店舗の出店、ランチやまち歩きなどで賑わう空間として活用



中瀬(ミニコンサート)



門脇付近(マラソン大会)



京橋川水辺のオープンカフェ(広島市)



中央町付近(川開き)



フリーマーケット(サンファン祭り)

## デザイン方針 (主に水際部分について)

### かわまちづくりの中核となる場

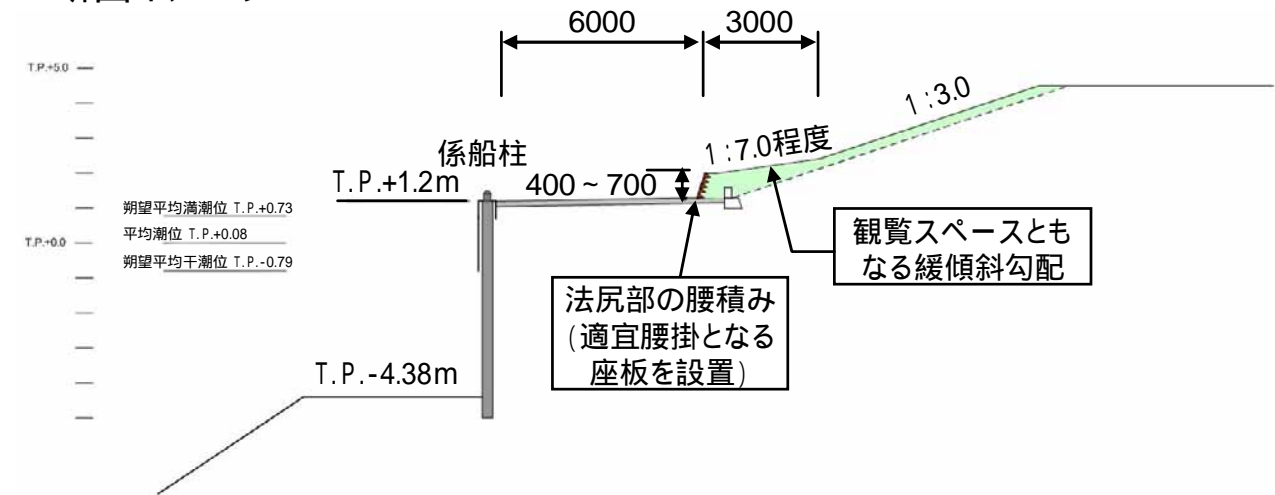
水面を間近に感じられる休憩・憩いの機能の充実  
居心地の良い、空間としての質の充実

上記の利活用空間としての位置づけを踏まえ、**水面を間近に感じられる休憩・憩いの場の充実**および、**イベント時利用にも対応する観覧スペースの確保**を考えた、水辺空間の整備を行う

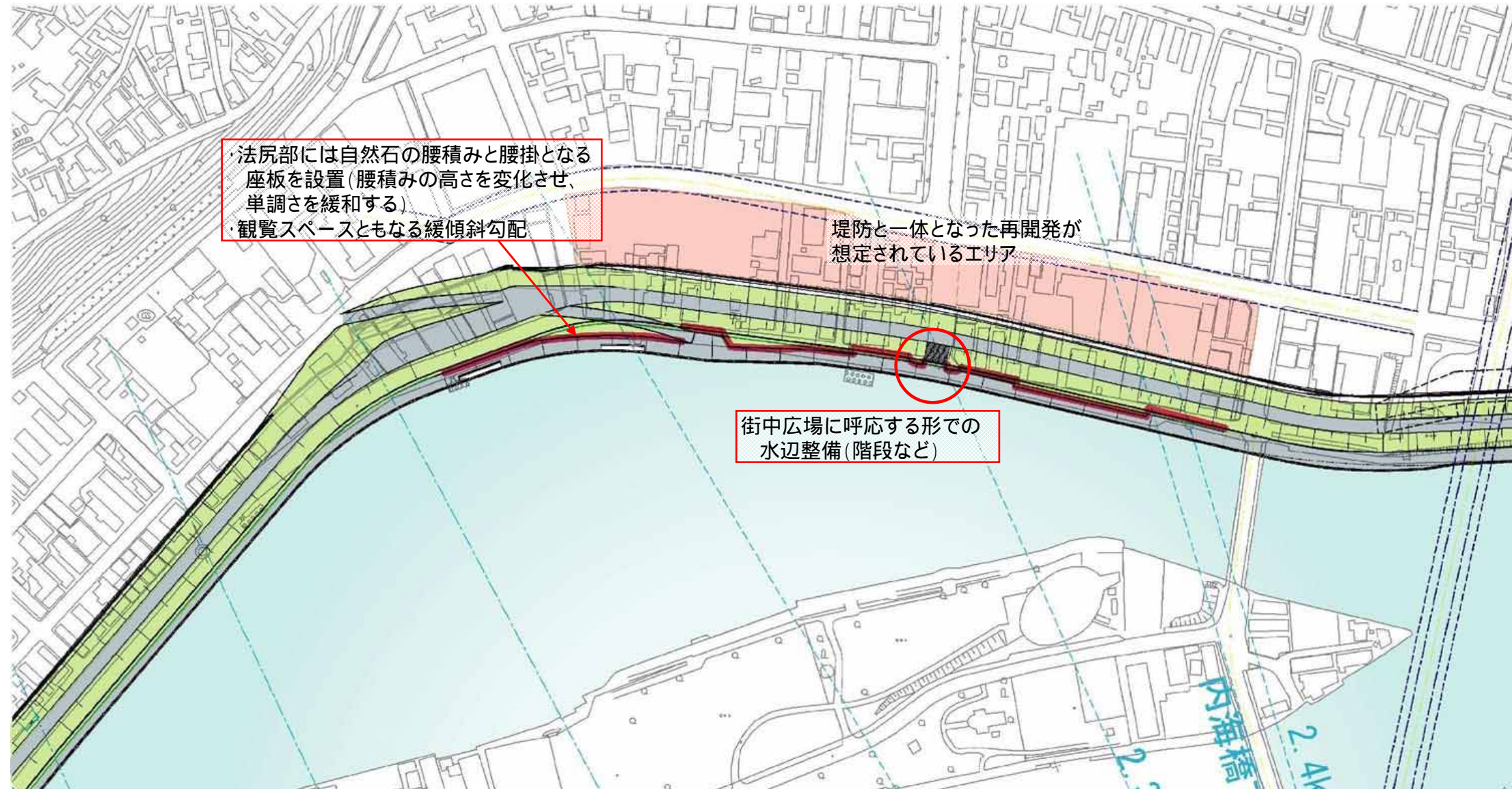
水辺空間はあくまでも、**その場で様々な活動が展開される舞台**であるということを踏まえ、空間を利用する人が**主役**となるよう、**過度な装飾は避けるデザイン**を心がける

### デザイン案

#### 断面イメージ



#### 平面イメージ



## (2) 住吉小学校前

### 住吉小学校との関係

- ・住吉小学校に隣接し、小学校の環境学習の場としての位置づけが考えられる。
- ・住吉小学校の児童たちは旧北上川で泳ぎ、水の楽しさ、怖さを学ぶ場であった。



北上川で泳ぐ住吉小学校の児童たち(昭和初期)

### 地形的な特性

- ・当該地区は、かつての北上川の流路であった箇所であり、その名残は現在の地形や空間にもうかがうことができる。



治水地形分類図に見る流路の名残  
氾濫平野、旧堤防、旧堤防(跡地)の表記が見られる



現況：一段高い現況道路とその法面が旧堤防の存在を留めている

# デザイン方針

## 旧北上川の河道の変遷や水辺環境を学ぶ自然学習の場

前述の利活用の場としての特性を踏まえ、旧河道の名残を空間デザインとして展開し、**地形の成り立ち**、さらには**水辺の自然環境を体感できる総合的な環境学習の場**としての水辺空間の整備を行う。



北上川での総合学習



鶴見川河口干潟「貝殻浜」(神奈川県)



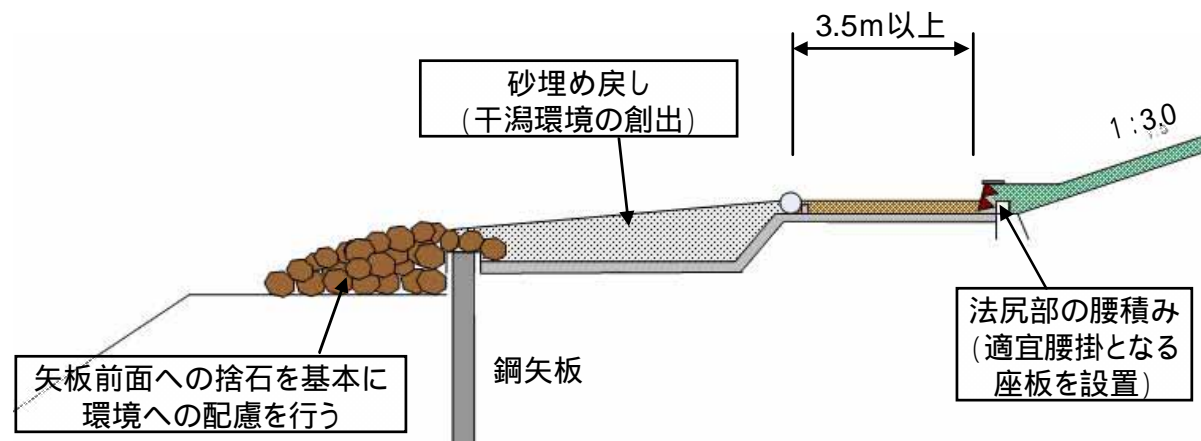
多摩川の石出水制(東京都)



## デザイン案



## 断面イメージ



かつての堤防を想起させる堤防線形、水際ライン、干潟環境等、自然環境の創出を念頭にした形状

今後小学校や地域の意見を聴いて、具体の利用を考えた構造を検討

### (3) 住吉公園

#### 整備に関するヒアリング結果

実施日時:平成25年7月16日(火)

内 容:住吉神社の歴史的背景の情報共有  
及び調整事項



かっぱ祭り



子供達の遊び場としての利用



現在の境内

<p>配置等に関する 留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御殿の方角は、現在の向きを維持。</li> <li>・冬至のときに、本殿から鳥居を見て正面に太陽が見えるように配置されている。</li> <li>・石碑、除夜塔は、境内の面積が決まり次第、神社側で配置を考える。</li> <li>・雄島と住吉神社との位置関係は、特にない。</li> </ul>
<p>景観に関する 留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石積みのような護岸整備を進めて欲しい。対岸から見た景観をイメージすることも必要。</li> <li>・堤外地の現道から神社を見たとき、景観を考慮した土留め等の工法を選定して欲しい。</li> </ul>

#### デザイン方針

神社、雄島・太鼓橋等との関係を十分考慮した、  
川側に開けた神社・公園空間の創出

#### 神社・公園としての丁寧な空間整備

石積護岸による神社領域の明示と空間的ゆとりの確保

堤防の山付けによる境内の空間的独立性の確保

神社、雄島・太鼓橋等、**周辺の要素との関係を十分考慮**した検討

**「袖の渡り」**の歴史的な位置づけを踏まえ、対岸と一体となった整備

## (4) 南浜地区【眺望への配慮と防災マリーナ構想を踏まえた堤防計画の変更検討】

### 日和山からの眺望にも配慮した堤防線形

- ・ 旧北上川の河口部については、日和山からの眺望も重要な要素との意見
- ・ 右岸南浜地区では、過去の緩やかな河岸地形を踏まえ、複雑な線形が連続しないような計画の検討

### 河川内係留船舶の集約を図る防災マリーナ構想

- ・ 河川内の長期係留船舶を集約し、大津波発生時等の船舶流出による被害拡大を防止する「防災マリーナ」を検討
- ・ 南浜地区の復興祈念公園構想との連携やまちづくり交流拠点として活用

今後、復興祈念公園構想や関連事業との調整を図りつつ検討していく

